

ペツツファースト

# 保護犬譲渡活動レポート Vol.③

保護犬の居る  
暮らし



# 里親さん Interview



今回は、先住犬がいるお家にお迎えいただいた保護犬にクローズアップします。里親になることを決めた経緯や、ご自宅での様子、先住犬との良い関係づくりについてうかがいました。



松野 佳代子さん

保護犬  
**ミーちゃん**  
トイプードル♀推定2歳

先住犬  
**まるこさん**  
フレンチブルドッグ♀4歳



仲良く扇風機の前でリラックス。

右足対策で買った段差の低いベッドも、今では色々入れるように。いつの間にかまるこさんが入っていることも。



松野さんが大好きで、いつも後をついて回るそう。  
取材中も、ずっと手をハミハミと甘噛みしていました。

## 「次に飼うなら保護犬を」と考えていた

保護犬の里親について考え始めたのは、先住犬のまるこが通院している動物病院がきっかけでした。院内のモニターでは、フィラリア予防などの情報とともに殺処分に関する情報も流していて、それを見るたびに「次に飼うなら保護犬にしよう」と思っていました。でも保健所に行くのは勇気がいるし、他にどこで保護犬を引き取れるのかは分からず…そんな折りに、たまたま通りがかった横浜元町店で保護犬コーナーを見つけました。それ以来、散歩の途中でときどき立ち寄って、まるごと相性の合う子を探すように。フレンチブルドッグは抜け毛が多いので、できれば毛の抜けにくい犬種がいいなと思い、別のトイプードルの保護犬と顔合わせしたこともあります。でもまるこがなかなか興味を示さず、お迎えは断念。そうして何頭かが別の里親さんの元へ卒業していった後、やってきたのがミーちゃんでした。

## 誕生日で繋がった、ミーちゃんとの不思議なご縁

初めて見たミーちゃんは、まるで痩せた小鹿のようでした。右足の膝蓋骨が悪いため足が地面に付かず、座り方もぎこちなくて、「すぐ病院に連れて行きたい」と思いながら見ていきました。すると周りのお客様に「抱っこした?」と背中を押され…抱き上げた瞬間からペロペロ舐められて、「連れて行って!」とアピールしているようでした。まるこも興味深々で臭いを嗅ぎに行き、苛める様子もなかったので、お迎えを決めました。

後から知って驚いたのは、ミーちゃんの誕生日が、娘の誕生日と同じだったことです。さらに娘の名前は「みく」で、名前も似ている。出会ってすぐにお迎えを決めましたが、ご縁があったのかなと思います。主人には相談せず連れて帰ったので、最初は驚かれましたが、今では「可愛いな~」と言ながら抱っこしています(笑)。保護犬の存在について話し合う、良いきっかけにもなりました。

## 少しでも負担がなくなるように、食生活と運動をサポート

お迎え翌日に動物病院を受診しましたが、残念ながら右足は治せない状態だったので、左足に負荷がかかりすぎないよう、体重や筋力のバランスに注意していくことに。滑らないようにラグをたくさん敷いて、家のなかを歩かせています。不整脈があるので、思い切り遊ばせるのは1日2回、10分程と決めて、休憩をしっかりとさせています。最初はベット用トイレの段差も越えられませんでしたが、今では階段やソファの上り下りもできるようになりました。

また、歯石と歯周病のため、甘噛みする所すべてが臭くなる状態だったので、固めのガム等を与えていました。歯磨きの練習も開始し、だいぶ汚れが取れました。体型と皮膚の改善のため、食事も工夫しています。ドライフードはあまり好まず、玄米や鶏肉、野菜を茹でたものを気に入ってくれたので、少しづつ皮膚に良いドライフードも混ぜて、食べさせています。徐々に骨ばっていた背中やお腹にも肉が付き、ゴツゴツ感がなくなっていました。

## 先住犬とは時間をかけて慣らし、上下関係をはっきりと

先住犬まることは、テリトリーと上下関係をしっかり教えることで、良い関係が作られています。最初は台所に衝立を立てて取り急ぎスペースを作ったのですが、落ち着かないのか、脱走して3階まで上がっていることも。専用のサークルが届いてからは、「ここが自分の場所！」と認識したのか、安心して過ごしています。

しばらくは2頭同時に部屋に出さず、慣れるまでサークル越しで対面させました。そしてお迎えから2週間後ぐらいから、一緒に部屋に出すように。最初はまるこが「私がお姉さんよ！」とマウンティングしていたので、上下関係をしっかり認識するように、何でも「まるこが一番」を徹底しています。まるこが遊び好きなので、しばらくはミーちゃんが勢いに押されている状態でしたが、だんだんと力加減と関係性を理解したようで、今はどちらもストレスなくマイペースに過ごしています。

## ミーちゃんの変化を感じながら、家族そろって遠出する日を楽しみに

これまで鼻ペちゃ系の犬が好きで、トイプードルを飼うのは初めてでしたが、日に日にミーちゃんの可愛さが増しています。お迎え直後はオドオドしていたものの、今では元気に遊び回り、たくさん撫でていたら毛ヅヤも良くなつて、人の手がかかると犬も変わるんだなと日々実感しています。治せない病気もありますが、私も腰が痛くなる時がありますし、主人は膝蓋骨の手術経験があるので共感できる部分も多く、多少のことは気になりません。今後も食生活と運動に気を付けていきます。

これから毛が伸びてきたら、トイプードルならではの色々なカットに挑戦するのが楽しみです。また、犬を乗せていろんな場所へ出掛けられるよう、最近軽キャンパーを購入したので、涼しくなってきたら一緒に遠出して、楽しい思い出を作っていきたいと思います。



菅野さんはヨガセラピストをされています。「マッサージしようか」と声を掛けると、まるこさんは体を伸ばして揉んでも上から覗き込みます。



ミーちゃんがソファの上にいても、気にせず怒らず、床で寝ているまるこさん。とても優しいお姉さんです。



最近、公園デビューをしたミーちゃん。3本の足をフル稼働させて、全速力で走ります。

取材協力：吉祥寺店 山岸美雪さん（店長）、永井彩恵子さん、桑垣静香さん、坂本優さん、高松美里さん、菅野茜さん



## Staff Interview

保護犬のために、私たちができること



ペツツファーストでは、現在15店舗で保護犬譲渡活動を行っています。その中でもトップの譲渡数で、保護犬譲渡活動を引っ張っているのが、吉祥寺店です。その原動力はどこから来るのか、保護犬とのエピソードや、活動への想いをスタッフに聞きました。

## よく観察し、触れ合い、 症状について学ぶ その積み重ねが良い接客につながる

「この子はトイレをした後、満面の笑顔になって、ちゃんとできたよ～って報告してくれてるんです。慣れてくると甘噛みもしますよ。」と教えてくれたのは、入社4ヶ月目の菅野さん。4月に異動してきた高松さんは、保護犬の飼育経験があり、「保護犬が大好きで、よく撫でに行きます。少しづつ心を開いてくれるのが嬉しい」と笑顔で話します。どのスタッフも保護犬をよく観察してスキンシップを取り、その子の良さを見つける努力をしていることが、言葉の端々から感じられました。店長の山岸さんは、「全員が保護犬をすごく可愛がっていて、病気についても自主的に勉強し、情報を共有しています。だからお客様への説明にも自然と熱が入るし、愛情を持って接しているのが伝わる」と言います。現在は月に4～5頭のペースで譲渡しており、早ければ1日で里親さんが決まることもあります。しかしそんな吉祥寺店でも、過去には譲渡まで約1ヶ月かかった保護犬もいました。

## どんな子にも、必ず出会いがある それを教えてくれた とある保護犬との1ヶ月

当社では、長期間里親さんが決まらない場合、別の店舗に移動させて再度譲渡を試みています。以前、他店から移動してきたものの、さらに吉祥寺店でも1ヶ月ほど里親さんが決まらなかつた保護犬がいました。とても明るく優しい性格の子でしたが、体毛が薄く、片目は白内障のためか、なかなか声が掛からずいました。

そうしてまた移動させる話が出始めた頃…ついに里親になりたいという方が現れます。その里親さんは、ご自身も片目が不自由な方でした。「自分も似た境遇だから、他人とは思えない。この子のすべて受け止めたい」と言ってくださり、無事に譲渡が決まりました。この保護犬をきっかけに、どんな子も譲渡できる自信がついた、と接客を担当した桑垣さんは言います。「保護犬のことを『可哀想』と言う方もいますが、今は新しい家族を見つけるチャンスが巡ってきているから、私たちは可哀想とは考えていません。どんな外見でも、病気があっても、『それでもいい』と言ってくれる人が必ずいる。この店に来た子は幸せ確定です」

## 飼育経験よりも、 病気、年齢、外見、性格など、 すべてを受け入れる覚悟が大切

早くお家を決めてあげたいけれど、誰にでも保護犬を譲渡するわけではありません。二度も悲しい想いをさせないために、里親を検討しているお客様に必ず伝えているのが、「これから先、お金も時間も、負担はかかる。それでも良いと思えるなら迎えてください」ということです。ほとんどの保護犬は何らかの疾患を持っています。治療で改善できるものもあれば、完治は難しいものまでさまざま。年齢も、7歳以上のシニア犬が大半です。「保護犬は、悩んで迎えるものではないと考えています。すべてを受け入れる覚悟が一番大切な、一つでも踏み切れない要素がある場合は、譲渡をご遠慮いただいている」と、全スタッフが同じ認識で接客をしています。

そのため、過去の飼育経験はあまり関係ないとされています。これまでに4頭を送り出した坂本さんは、「飼育が初めての方ほど、飼育方法や病気について徹底的に調べて、納得してから迎えられることが多いです。保護犬でも子犬でも、この子が良い！と思える子を迎えるのが一番です」と話します。



ウェルシュテリアのバチュリちゃんと、店長の山岸さん。バチュリちゃんは、取材後に里親さんが決まりました。



保護犬もスタッフが大好きで、構ってもらえると嬉しそう。卒業犬の中には、お店に遊びに来た後に「もっとお店にいたい」とダダをごねてしまう子もいるそう。

## 新しい家族と笑顔で暮らす姿を見て、 次の保護犬を送り出すエネルギーをもらう

譲渡活動をやっていて良かったと感じるのは、やはり譲渡後の変化に触れたときだと思います。「保護犬は、表情の変化が特に大きい。お店にいた頃よりも輝いた笑顔で、歩き方もウキウキしたり、毛ヅヤが良くなったり、ちょっとぼっちょりしてきたり。子犬とは違った変化を見るのが楽しみです」そう語るのは、保護犬のセラピーを仕事にしたいと考えていた永井さん。譲渡後の幸せ

な姿をいくつも見てきたことが、「今いる子も絶対に幸せにできる」というスタッフの自信にもつながっています。

里親さんとの関係も良好で、たくさんの卒業犬がお店に遊びに来てくれています。「お迎えして良かった」「素敵なお会いをありがとうございました」という言葉に励まされながら、保護犬も里親さんも幸せになるような出会いを、これからも提供ていきます。



お店でお客様やスタッフ  
と触れ合いながら、保護  
犬専用ルームで新し  
い家族を待っています。

10:00



開店準備をするスタッフにちよかいを出し  
て、ひと遊び。朝礼にもちゃんと参加します。

11:00



お店がオープンしたら、保護犬専用ルームで  
スタンバイ。お客様から声が掛かるのを待ちます。

13:00



耳掃除や爪切り、ブラッシングなど、定期的  
にお手入れをしています。

15:00



お客様が少ない時は、店内を歩かせたり、  
スキンシップをしたり。お店の空気が明るく  
なります。

17:00



涼しくなってきたらお散歩へ。いろんな環境  
や人に慣れるための練習も兼ねています。

# 里親募集中の保護犬をチェック!



## ペツツファースト ホームページ

「保護犬譲渡活動」のページでは、現在お店にいる保護犬を、一覧で見ることができます。現在の動画や写真を依頼できるほか、詳しい性格や症状などのご質問には、ウェブ専任スタッフがしっかりと対応いたします。ぜひお気軽にお問い合わせください♪

<http://pfirst.jp/Static/Rescue/>



## 公式 facebook

保護犬譲渡活動や、マイクロチップ普及活動などの社会貢献活動、新店オープン、珍しい種類の子犬子猫の写真など、会社の最新ニュースを投稿しています。

<https://www.facebook.com/pfirst>



## 譲渡活動実施店 (15店舗)

累計譲渡数 263頭 (2015年9月現在)

**東京都** 青山店

自由が丘店

**埼玉県**

川越店

広尾店

麻布十番店

**千葉県**

流山おおたかの森店

吉祥寺店

町田店

ららぽーと TOKYO-BAY 店

武蔵小山店 下北沢店

**神奈川県**

横浜元町店 川崎店

お台場店

**京都府**

京都店